



2022年

みやま

第286号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



【上段】祈禱の様子
【下段】伐採前

【上段】伐採の様子
【下段】伐採後

病院東館ロータリーの榎の木を伐採しました

院長 平川 淳一

昨年から何度か報告させていただいていますが、病院の玄関の前にずっと生えていた大きな榎の木が、東館に届くほど大きくなってしまいました。一部の枝は芯が空洞になり、枝を切ったりしてなんとかやってきましたが、大きくなり過ぎて危険性もあるため伐採することにしました。3月1日に地の神様である八幡神社さんにお祓いをしていただき、3月6日の日曜日に大きなクレーンを入れるなど、かなりの大工事になりました。まずは広がった木の上の方の枝を落とし、そのあと上から下に順番に切り込んで、最後は抜根しました。かなり根が広範囲に広がっているため、薬を入れて3、4ヶ月かけて徐々に枯らしていくようです。それが終わってから、玄関前のロータリーの利用について考えようと思います。それにしても、正しく、次世代への事業の開始を象徴するイベントになりました。新たな顔で、令和4年度をスタートさせたいと思います。

【表紙】院長挨拶 【P2】地域生活支援室より 【P3】薬剤科から
【P4】精神科療養病棟における個別の身体リハビリテーション
【P5-6】平川病院における新型コロナワクチン3回目接種前後の抗体価について

少しでも楽しいひとときを

地域生活支援室より

美山ヒルズ 精神保健福祉士 成重 博仁

私は、精神障害者の方を対象としたグループホーム「美山ヒルズ」で精神保健福祉士として働いています。約2年前に新型コロナウイルスが世界的に流行してからというもの、これまでの当たり前の生活が一変して、マスク着用、手指消毒、3密回避など感染予防をしなくてはならなくなりました。

当事業所においても感染予防に取り組みながら運営をしていますが、これまで当たり前だったお花見、旅行、忘年会など様々な行事も中止を余儀なくされ、季節を感じる事や利用者の親睦・交流の場もないまま、ただただ月日を重ねる日々でした。

そのような中で去年は、利用者の方に入居中に少しでも楽しいひとときを感じてもらいたく、職員間で考えを巡らせました。季節を感じてもらうために、お花見弁当、恵方巻、クリスマス料理といった行事食の提供や、バー

チャル旅行と題して旅行先を「旅介」などの動画配信で視聴しながらご当地のものを味わう企画、入居者・OB合同の忘年会・新年会では、会自体を2部制に分けて参加者の入れ替えを行い、入居者の方とダンス動画を撮影して余興で流したり、食事もテイクアウトに出来るようにして行いました。

行事を行う上で、少人数・換気・パーティションの導入など感染予防で配慮することは多々あり、大変でした。それでも、利用者同士の交流や楽しそうな様子が見られたので、そのような機会を提供できて良かったように思います。

まだまだ難しいご時世は続くかもしれませんが、この時だからこそ楽しめること、少しでも楽しいひとときを送れるように取り組んでいきたいと思っています。



薬剤科に入職して

薬剤科から

薬剤科 薬剤師 栗原 和美

8月より平川病院薬剤科にて勤務させていただいております、栗原和美と申します。以前は調剤薬局にて勤務しておりました。

私には、より臨床に近いところで医療スタッフの一員として仕事をする夢がありました。このままかなわず終わってしまう夢だと思っておりましたが、ご縁あって、平川病院に勤務することとなりました。

早いもので入職してから半年が過ぎました。前職の調剤薬局との業務の違いに戸惑いもあり、薬剤科の皆さんにご迷惑ばかりかける日々でしたが、上司、先輩方に、日々丁寧な指導をしていただき、少しずつ新しい業務が行えるようになってきたのでは、と思えるようになってきたところです。

調剤薬局では、扱う事のなかった注射薬についても学ぶことが大変多く、新しい分野を勉強できる楽しさを感じつつ、みなさんのように仕事が行えるよう、日々精進していかなければと思っています。

病棟では、服薬指導をさせていただいております。じっくりと患者さんと向かい合っ、かかわる新鮮さ、難しさを実感しております。病院の理念である「患者さんの不安をとること」を薬剤師として行えるよう、誠実に真摯に患者さんや他部署の方、そして日々の業務と向き合っていきたいと思っております。ご迷惑やお世話をおかけすることが多々ありますが、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

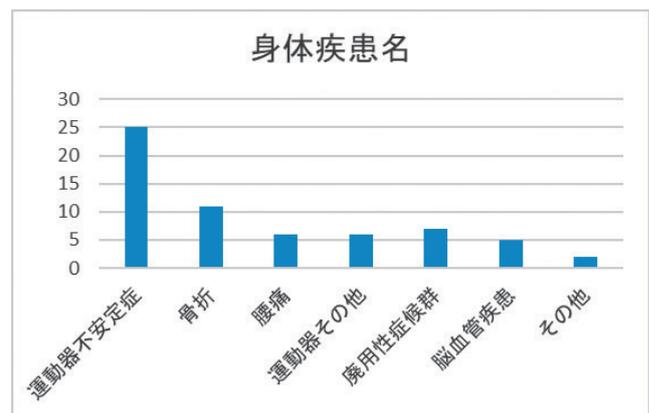
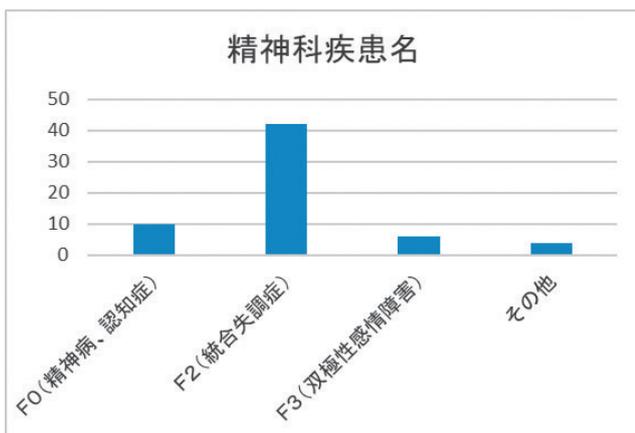


精神科療養病棟における個別の身体リハビリテーション

医療の質向上促進委員会

現在、精神科療養病棟では長期入院患者の高齢化に伴い様々な身体的問題が大きな課題となっています。その中には歩行障害はもちろんですが、入浴、排せつ、食事など様々な日常生活に影響を及ぼします。しかし、これまでの法律では身体リハビリは保険適用になっていなかったため、必要な人に身体リハビリを行う事は出来ませんでした。その様な状況のなか、令和2年度に診療報酬改定があり、今回の改定によってやっと身体疾患に対する専門的な個別リハビリが可能となりました。この改定は精神科病院のなかではとても大きな改定だったと言えます。今回は当院精神科療養病棟でリハビリを実施した方の特徴や傾向について説明します。

- 対象期間：2020年4月～2022年1月
- 平均年齢：66.2歳
- 対象人数：62名（男24名 女38名）
- 実施期間：112.7日



対象は2020年4月～2022年1月の間に当院精神科療養病棟でリハビリを実施・終了した62名です。年齢は平均66.2歳、男性24名、女性38名、リハ実施期間は平均112.7日でした。精神科疾患名は統合失調症が42名と最も多く、身体疾患名は運動機能低下によりバランス能力や歩行能力の低下が生じる運動器不安定症が25名、転倒などによる骨折が11名、腰痛等が6名と多くは整形外科疾患でした。

今回の対象者の多くは整形外科疾患であり、バランス機能の低下や転倒骨折による歩行障害などについては改善が得られ、トイレ動作自立や転倒リスクの減少につながっていると考えられます。一方で、整形外科疾患以外の患者様は少数ながらも多彩で、脳血管や呼吸器の疾患、寝たきりによる廃用、排便困難など様々です。また、施設や自宅への退院を想定している方、病棟内生活自立を目指している方など目標設定も患者様によって違います。そのため、患者様ひとりひとりに合った専門的で個別性の高い治療を提供する必要があります。今後も転倒リスクの減少や病棟内生活に着目して多様なニーズに応えるべくオーダーメイドのリハビリを提供します。

平川病院における新型コロナワクチン3回目接種前後の抗体価について

院内感染対策委員会

当院では、年末年始にかけて、3回目の新型コロナワクチン接種を行いました。尚、1回目2回目はファイザーです。接種前に一度抗体価検査を行い、接種後約2週間後の抗体価検査を行い比較した結果、以下のようになりました。

接種前の全体の平均抗体価は587U/mLでしたが、接種後の平均抗体価は35651 U/mLで、60.8倍の抗体価が上昇していたことが分かりました。

また、若年層より高齢層の倍率が増加しているのは、接種前の抗体価が低かったことが要因と考えられます。

【 接種概要 】

3回目接種	男性	女性	合計
・ファイザー接種者数	46	65	111
・モデルナ接種者数	59	101	160
・3回目接種者合計数	105	166	271

【 抗体価検査について 】

検査方法：SARS-CoV-2 スパイク抗体（カットオフ値 250000U/mL）

【 3回目接種前後の抗体価検査結果（倍率）について 】

※抗体価 赤（高い）→青（低い）

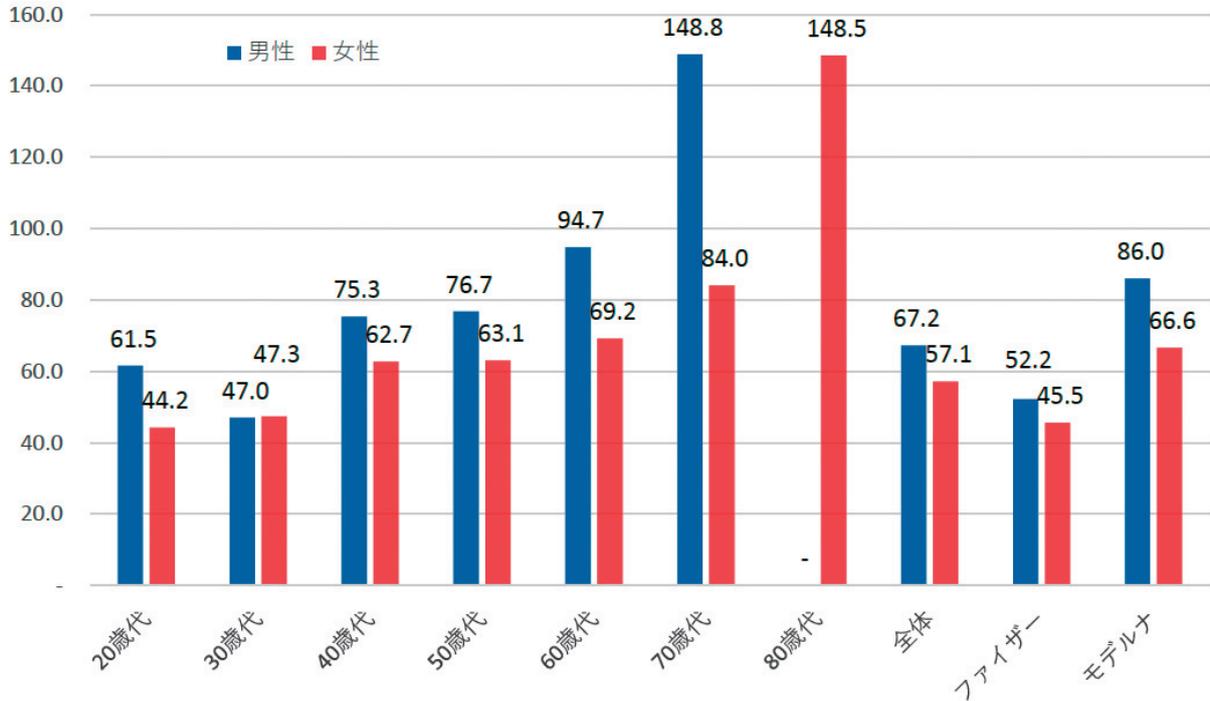
	男性			女性			全体		
	人数	平均倍率	接種後の平均抗体価(U/mL)	人数	平均倍率	接種後の平均抗体価(U/mL)	人数	平均倍率	接種後の平均抗体価(U/mL)
20歳代	16	61.5	44481	32	44.2	35669	48	49.5	38606
30歳代	30	47.0	32410	33	47.3	28358	63	47.2	30288
40歳代	28	75.3	37950	40	62.7	41063	68	67.1	39781
50歳代	13	76.7	33175	29	63.1	40021	42	66.3	37902
60歳代	10	94.7	29360	19	69.2	25242	29	77.1	26662
70歳代	8	148.8	52188	8	84.0	28564	16	116.9	40376
80歳代	0	-	-	5	148.5	36800	5	148.5	36800
全体	105	67.2	37038	166	57.1	34774	271	60.8	35651
ファイザー	46	52.2	36609	65	45.5	31957	111	48.3	33885
モデルナ	59	86.0	37373	101	66.6	36586	160	72.7	36876

次ページへ続く

前ページの続き

【 3回目新型コロナウイルス接種前後の倍率について(年齢別/性別) 】

(倍率)



当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12カ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40カ所、合わせて52カ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。

認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。

尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でご確認いただけます。

[とうきょう認知症ナビ](#)



編集後記

北京五輪は、冬の五輪としては最多となる18個のメダルを獲得し終幕した。日本選手の活躍はさておき、冬の競技と言えば、Ski、Skate、Ice hockey・・・Snow board HPは、新しい競技として許容出来るが、Skiですることはないかと。そんな中で、一番冬の五輪競技らしいと思ったのは、バイアスロン。Skiを履いて野山を歩き銃で狩りをする。それが競技となるなんてgoodですね。スポーツイベントは、始まると引き込まれ感動する。次はサッカーのW杯ですね。予選突破を信じてます。朝ドラで「春一番」が話題に、もうすぐ春ですね♪

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

